葛生義務教育学校だより No.１３

嘉多山

令和８年３月１日
【発行者】
佐野市立葛生義務教育学校
校長

【令和の新しい学校の創造】

開校３年目。開校時に４つの小学校が一つになり、７年生としてスタートした学年が９年生となって間もなく義務教育学校を卒業します。合わせて６年生が８年生、５年生が７年生へとそれぞれが前期課程から後期課程へ進級し、小学校から中学校への進学ではなく、義務教育学校として一貫した指導・支援ができるようになりました。今年度は、開校からの２年間の成果と課題を振り返り、改めて、義務教育学校という環境を最大限に活かした教育活動を実践するために、「葛生義務教育学校におけるよりよい小中一貫教育の在り方に関する研究」をテーマとして、定期的・計画的に全教職員での研究に努めています。開校より、９年間を基礎期（１から４年生）・充実期（５から７年生）・発展期（８・９年生）の三期の区割りで教育活動を行っておりますが、今年度は特に、充実期での前期課程と後期課程の接続を意識した取組をしております。

一つ目は、後期課程職員による教科担任制の拡充です。５・６年生は７年生への接続・準備期間と捉え、外国語・体育・音楽、（４年生では理科）を教科担任制としました。こうすることで、早くから教科の特性に触れたり、小学校と中学校の教え方の違いに戸惑ったりすることが少なくなります。合わせて、後期課程と同日に定期テストを実施したり、積極的に英語検定や漢字検定にチャレンジできる環境を整えたりするなどして、学校全体の学力向上に努めています。

二つ目は、希望する５・６年生には後期課程の部活動に参加できる体制を構築しました。活動する人数が増えることで、活動内容もより充実し、その分野が持つ本来の楽しさが味わえるようになります。活動量も増え、後期課程生徒も含めて全校の体力向上につながると考えております。

三つ目は、前期課程と後期課程で別々になっていた日課表や学習・生活のきまりを統一できるように見直しをしています。こうすることで、教科担任制や１年生から９年生までの全校での教育活動がしやすくなり、一体感が生まれ、義務教育学校ならではの教育活動の効果を得ることができます。

四つ目は、地域の教育力の活用です。現在、学校が抱える課題も複雑化・困難化しております。そこで、ＰＴＡ・学校運営協議会・地域コーディネーターを基板に地域との協力体制をより一層強くし、学校の課題を一緒に解決していきます。地域と学校とのつながりを深めることで、地域のシンボル的な役割を果たす学校になっていきます。

これからの予測困難で変化の激しい時代において、児童生徒は我が国の伝統や文化を大切にしつつ、新たな価値を生み出しながら、よりよい社会を形成していこうとする力を身に付けていかなければなりません。そのためにも、九年間の一貫した学びのステージで成長を止めず、「小学校＋中学校」ではなく、真の「義務教育学校」になるよう、今後も、児童生徒・保護者・地域・教職員が一体となって、「令和」にふさわしい新しい学校を創っていきたいと思います。ご協力・ご支援よろしくお願いします。